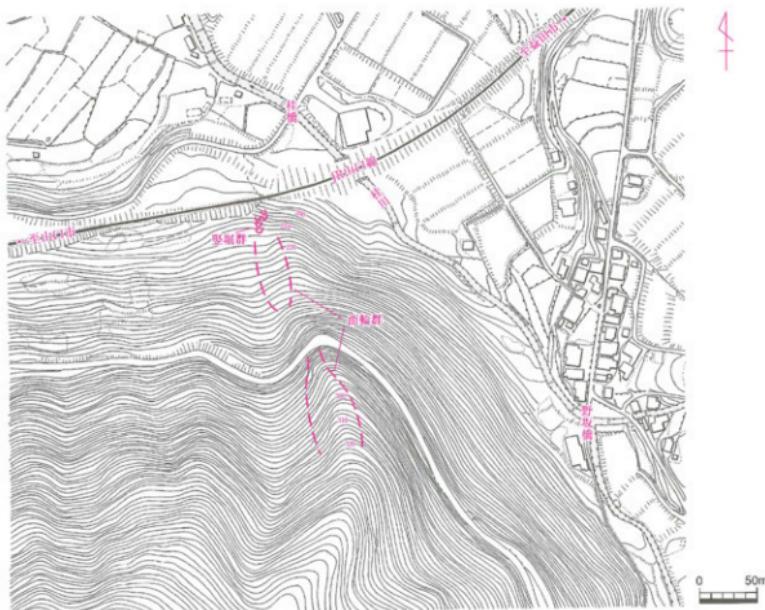


## 第5節 陶晴賢本陣跡（大蔭地区）

- ①住所 津和野町鶯原  
②調査原因 県道整備事業  
③調査内容 踏査  
④調査結果 遺跡の存在を確認した。  
⑤遺跡の時代と種類 戦国時代の陣城跡  
⑥主な発見遺構 堪堀、石積み、曲輪  
⑦主な出土品と概数 なし  
⑧調査所見 当初試掘を行う予定であったが、踏査によって遺跡の存在が推定されたため、試掘調査は行わなかった。  
尾根筋に小規模な堪堀が5本連続し、その上部に曲輪群が存在していることを確認。立地条件などを総合すると、陶晴賢本陣跡の最前線である可能性が高い。このことは、当遺跡が山頂から麓付近までの広大な面積を有していたことを意味する。  
当遺跡は、古記録により構築年代が限定されることから全国的な城館研究にとって重要な遺跡である。



第7図 陶晴賢本陣跡踏査範囲図

図版 5



1. 調査地北東部遠景



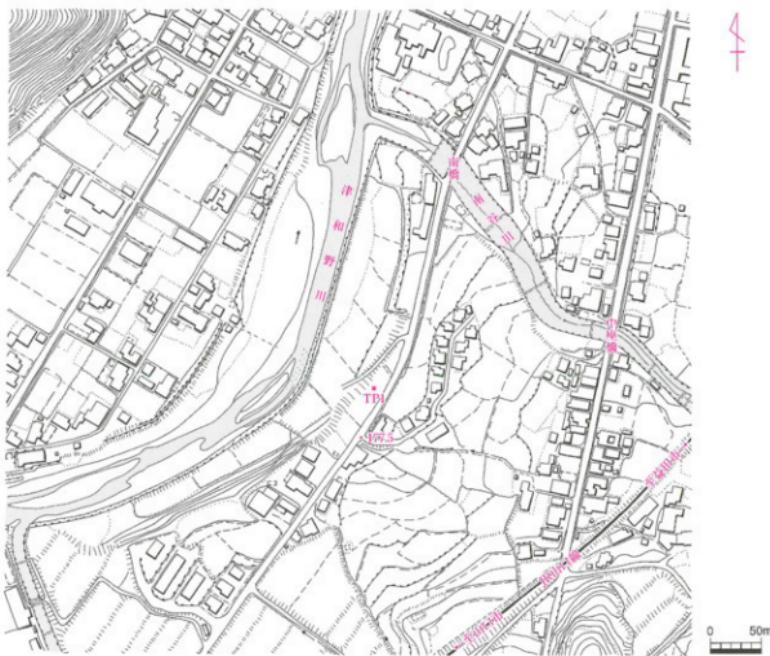
2. 堅堀（中央の窪んだ部分）



3. 堅堀正面の石積み

## 第6節 中座西中組地区

- ①住所 津和野町中座
- ②調査原因 県道整備事業
- ③調査内容 試掘 1ヶ
- ④調査結果 遺跡の存在を確認できなかった。
- ⑤遺跡の時代と種類 なし
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土品と概数 なし
- ⑧調査所見 1ヶ所の試掘坑を設定したが、耕作土以下砂疊層となり、調査地点は西中組遺跡の範囲外であることが判明した。

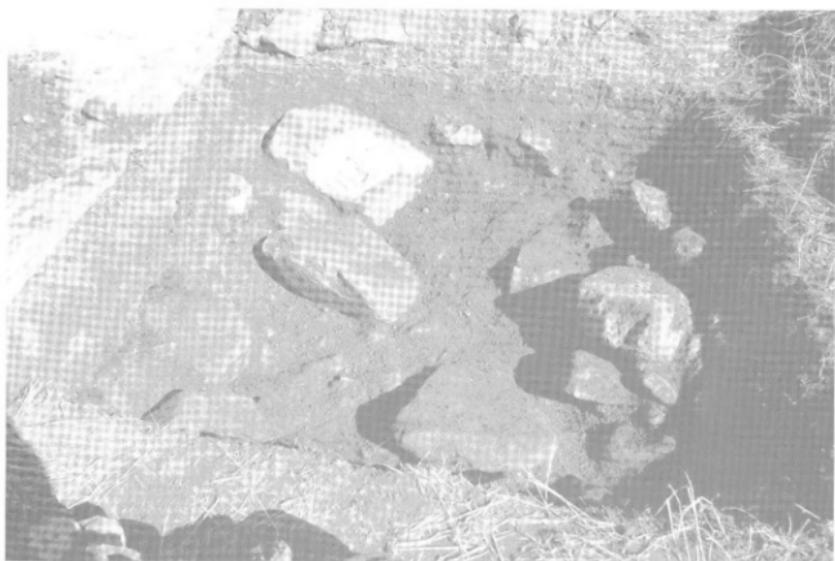


第8図 中座西中組地区試掘調査配置図

図版 6



1. 調査区遠景（南より）



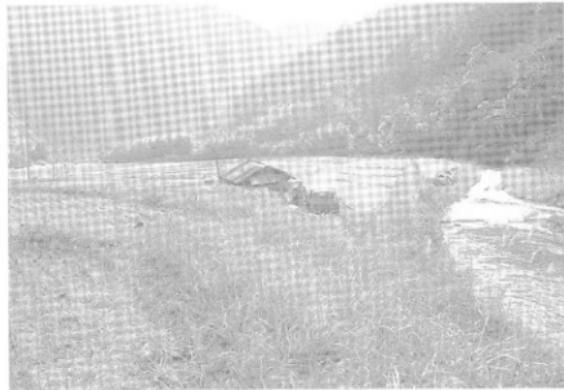
2. 完掘状況（南より）

## 第7節 牧ヶ野地区

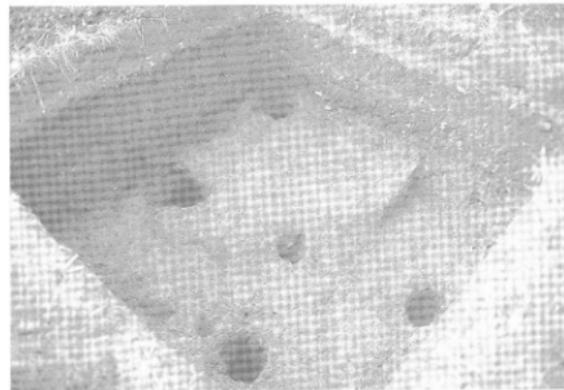
- ①住所 津和野町高峰  
②調査原因 中山間総合整備事業  
③調査内容 試掘36ヶ  
④調査結果 遺跡の存在を確認した。  
⑤遺跡の時代と種類 弘生・鎌倉・戦国時代の集落跡  
⑥主な発見遺構 石組み造構、土坑、柱穴  
⑦主な出土品と概数 弘生土器ビニール1袋、陶磁器ビニール1袋  
土師器・瓦質土器コンテナ1箱  
⑧調査所見 36ヶ所の試掘坑を設定した。調査対象地北西部を中心に弘生・戦国時代の遺構の存在を確認した。  
TP 6では戦国期の石組み造構を確認し、類例からトイレの一部である可能性もある。  
河岸段丘を下ったTP 18では鎌倉期の土坑を確認した。土坑 中には、焼土・粘土・焼け石・土師質鍋片などが含まれており、立地条件も含めた遺跡の性格を把握するため、調査区を拡張して調査を実施した。  
その結果、鎌倉期の遺跡はTP 34の北東で遺跡の範囲が限られ、その間に柱穴・土坑が多数存在していることが判明した。柱穴の切り合いから2時期にわたる建物跡が復元されるものと考えられる。  
なお、TP 35・36は堤防の断ち割りトレーニチである。この堤防は、地域住民の話を総合すると遅くとも明治時代の洪水の後には築かれていたものと考えられる。町内には数少ない総石造りの堤防であり、近代の治水技術を示す近代遺跡として調査の対象とした。  
遺跡が未発見であった当地区で、弘生時代以降の遺構を確認できたことは貴重な成果であった。



第9図 牧ヶ野地区試掘調査配置図



1. 調査区遠景（北西より）



2. TP5完掘状況（南東より）



3. TP6戦国期の石組遺構  
(北東より)

図版 8



1. TP18錆倉期の柱穴群  
(北東より)



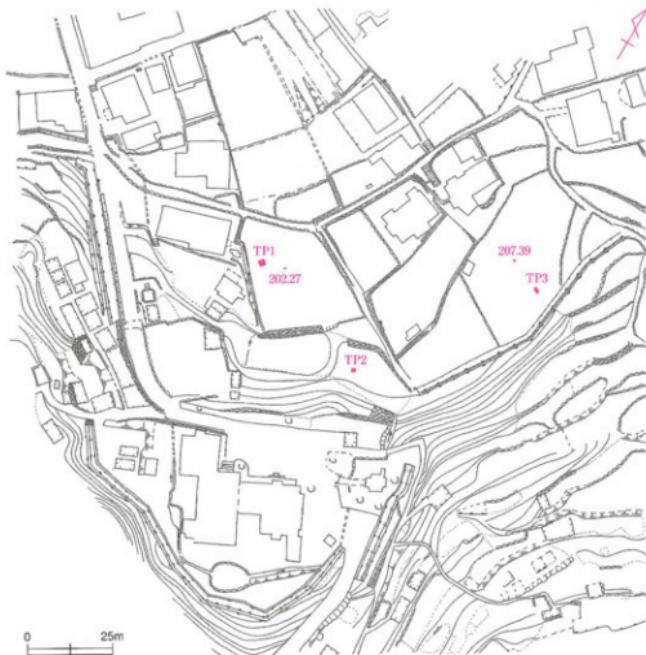
2. TP36石積みの断面 (東より)



3. 出土遺物

## 第8節 畦田地区

- ①住所 津和野町森村  
②調査原因 町道改良工事  
③調査内容 試掘 3ヶ  
④調査結果 遺跡の存在は確認されなかった。  
⑤遺跡の時代と種類 奈良・平安時代の散布地  
⑥主な発見遺構 なし  
⑦主な出土品と概数 須恵器ビニール 1袋  
⑧調査所見 3ヶ所の試掘坑を設定した。試掘調査地点では遺跡の存在は確認されなかった。  
しかし周辺を踏査した結果、TP1・2・3の中間あたりの畑で須恵器片が採集されることから、付近に遺跡が存在しているものと考えられる。  
以前この遺跡は丸山遺跡として一括されていたが、丸山川をはさんで対岸に位置することから、畦田遺跡として独立させて把握するのが適当と考えられる。

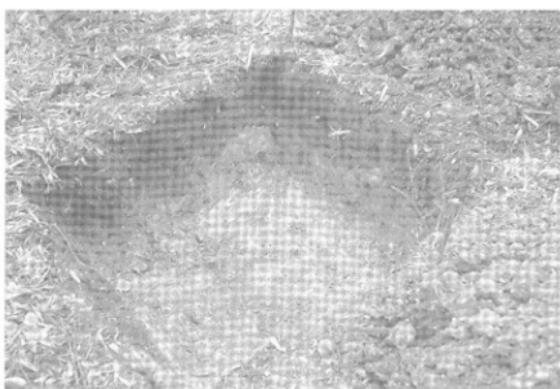


第10図 畦田地区試掘調査配置図

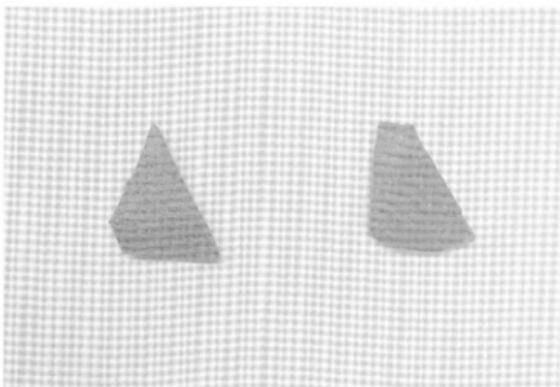
図版9



1. TP1付近遠景（北西より）



2. TP2完掘状況（西より）

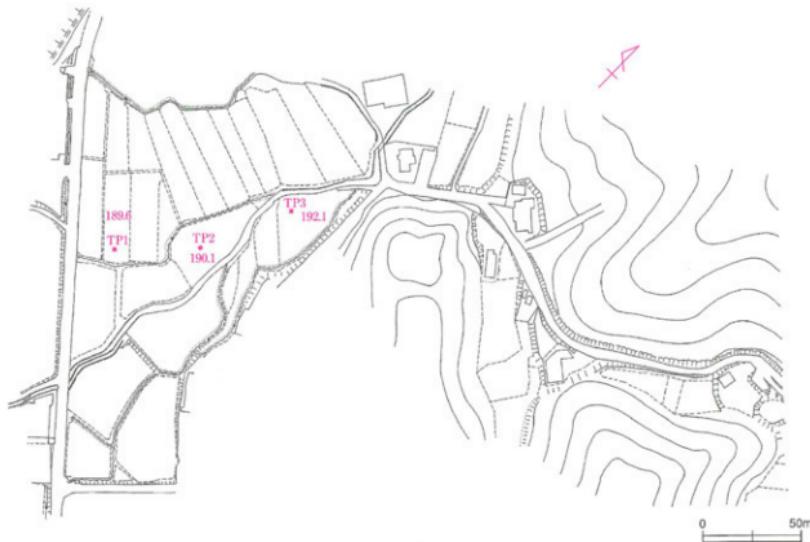


3. 出土遺物

## 第3章 平成10年度(1998) 調査概要

### 第1節 山入地区

- ①住所 津和野町田二穂  
②調査原因 大規模林道開発林道事業  
③調査内容 試掘3ヶ  
④調査結果 遺跡の存在を確認した。  
⑤遺跡の時代と種類 弥生時代の散布地  
⑥主な発見遺構 なし  
⑦主な出土物と概数 弥生土器1片、陶磁器ビニール1袋  
⑧調査所見 3ヶ所の試掘坑を設定した。TP1～3いずれの試掘坑とも遺構はない。砂質土・粘質土の互層状の堆積および自然流木の出土からすると、河川の氾濫原であったものと考えられる。  
遺物は、近世以降の陶磁器と弥生土器の底部が1片出土した。山入地区では初めての弥生時代遺物の確認であり、周辺に弥生時代の遺跡が存在しているものと見られる。  
また、中世古文書からその存在が推定される中世期の遺構・遺物については、今回の調査範囲では確認できなかった。今後、さらに周辺で弥生時代・中世の遺構の範囲確認を進める必要がある。



第11図 山入地区試掘調査配置図